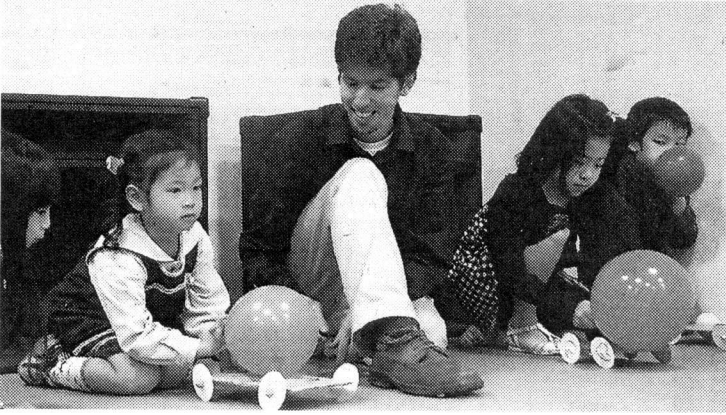


# 体感「なんで」の発想

鹿児島・グローブアカデミー



手作りのロケットカーで遊ぶ児童と講師＝鹿児島市東千石町

科学実験や演劇、ダンスなどを通じて、楽しみながら思考力や表現力を鍛えるコミュニケーションスクール「グローブアカデミー」が鹿児島市で週に1回開かれている。小学生が対象で、今年で2年目。自分の力で未来を切り開く「国際人」の育成がねらいだ。どんな学びの場なのか、教室を訪ねた。  
(城真由)

## 考える力と応用力 育成し「国際人」に

「Not square. Circle is the best. OK? (四角はだめだよ、円がいい。わかっただ?)」  
鹿児島市東千石町のビル4階。イスラエル出身の講師、タル・ピアさんが円形の厚紙を手に、英語で子どもたちに優しく語りかけた。車体に膨らんだ風船を取り付け、風船が吹き出す空気で走らせるロケットカーをつくる「科学」の授業だ。  
「OK!」と元気よく返事する子ども、うんうんとうなずく子ども、すでに作業に入っている子ども……。厚紙を

使ったタイヤ作りに、子どもたちは目を輝かせ、自分たちのペースでロケットカーづくりに取り組んだ。

車が完成すると走らせて競ってみる。遅い車もあれば、真つすぐに進まない車も。「なんで遅いんだろう?」「なんで曲がるんだろう?」。講師たちはそう問いかけて、子どもたちに考えさせる。発想力を鍛えるのが目的のため、講師から答えは示さない。計算式や科学用語は一切使わず、体感で科学の仕組みを教えていく。

スクールを運営するNPO法人「ネイチャリング・プロジェクト」(鹿児島市)は、起業家の育成・支援が主な事業。松村一芳代表理事はその仕事に携わる中で、起業家にふさわしい人材を育てるため大人を再教育するには限界があると感じたという。幼い頃から可能性を最大限に發揮する「学校」の必要性を感じ、スクールを始めた。グローブアカデミーを担当する大和田清香さんは、社会

が激しく変化する現代では、「従来と同じ学習ではいけない」と話す。「物事を言われた通りにこなすのではなく、自ら課題を見つけ、それを解決するために習得してきたことを応用させる力、柔軟な発想力のある人こそ、ビジネスシーンで求められる人材なんです」

演劇の授業では、子どもたちに脚本を考えさせる。衣装、小道具もすべて作らせる。演劇を経験することで日本人が苦手とする「表現力」を豊かにするねらいがある。行動力を培うため、仕事場訪問など外へ出掛けて学ぶことに重点を置く。  
世界とつながる工夫もしている。普段の授業は英語。講師6人のうち4人が外国人。子どもたちは英語がわからなくても、身ぶり手ぶりや物を使ってコミュニケーションを図る。英語はあくまでも会話の手段にすぎず、英語を話すことが目的の英会話の授業とは異なる。

の提携校とテレビ電話で会話するほか、3月には1週間の短期海外留学も実施する。「日本人の子どもは異文化の人と接する機会が少ない。実際に、外国人講師がその場に立って自分の故郷のことを話すだけでも、立派な異文化交流になる」と大和田さんは話す。

昨年は小学1～5年の7人が在籍した。開校時から6年と4年の子ども2人を通わせている鹿児島市の辛島幸恵さんは、新聞の情報欄で見つけ、体験授業に参加した。「子どもたちが本当に楽しそう。人と人とのコミュニケーションに必要なものを体得させてくれる授業。普段から積極的にいるんな事に取組めるようになった」と話す。  
授業は毎週土曜日午前10時(午後3時(月4回実施))。1コマ45分(1日4コマある。授業料は月1万6千円。問い合わせは、ネイチャリング・プロジェクト(099・219・5739)。